



「ふるさと」に向き合う

先日、文化学習発表会を開催しました。学習した「文化」には多様な解釈がありますが、人が行うことの全てを指しており、別の言い方をすれば「生き方」そのものと言えます。今年のテーマは「ふるさと」でした。私たちのふるさと口之津や南島原、または長崎とどのように向き合い、今後どのような関係をつくるか。ここには、二つの重要な要素があります。

「はたらく」と「くらす」

この二つについて、生徒(保護者の方々)としては「我が子」は「どうで?」という選択をいつかはすることになります。

この課題に正面から向き合ったのが、三年生の演劇「輝け!くちのつ」でした。他にも、二年生の職場体験学習の成果の発表、有志による瀬詰太鼓もまた、ふるさとを学び、向き合ったものとなりました。



受験希望の状況 (十月後半現在)

三年生にとって「生き方を選ぶ」人生で最初の選択となる受験校を決定する日が迫っています。現在、生徒たちが希望している高校等は、次のとおりです。
(高校名のみ、学科等は省略)

- 口加高校、
- 島原工業高校
- 島原翔南高校
- 島原高校、小浜高校、国見高校、
- 諫早農業高校、佐世保工業高専、
- 創成館高校、長崎日大高校、鳴滝高校、
- 飯塚高校、トライ式高等学院、
- 勇志国際高校、鳳凰高校、未定



今、三者面談を行っている真っ最中で、中学生としては(保護者としても)大変に悩まれていることと思いますが、この受験のあとに「人生二〇〇年時代」の大海原が広がっています。風を帆いっぱいを受けて、「自分の生き方」という羅針盤をもって、よりよく生きて欲しいと願っています。私も、彼らの傍にいる大人の一人として

元気で明るく、幸せ(そう)に いきいきと豊かに生きる

このことでふるさとに生きる一つの手本を見せることが大事だとつくづくと思っています。
(人生二〇〇年時代については、裏面に特集記事あり)

「風の谷」

この表題を聞いて「ナウシカ」と思う人は、かなりのジブリ映画ファンですね。この名をつけた「まち」の構想をまじめに立ち上げ、実際に動き出している安宅和人さん(情報学・脳科学の教授)に今、注目しています。科学技術は自制して使い、人の輪を大切にして、自然とともに豊かに生きる。そのような「まちを創る」ためには、次のことが必要とのことでした。

未来⇨夢+技術+デザイン

一方の例で示されたのが「ブレイドランナー」(これも映画)の、あの廃退した都市の風景です。極端な対比ではありますが、「人が何を想い、何を大切に、どんな力を持つか」ということが未来を決めるということでした。(だから教育は大切ですね) ちなみに安宅教授が、クリーンエネルギーとして大注目されているのが潮流発電とのこと。口之津は風の谷になれるかも?と思う今日この頃です。



《 主な行事予定 》

- 〈11月〉
 - 7日(火) 三者面談(3年生) ~17日
 - 15日(水) 福祉体験学習(3年生)
 - 22日(水) 食育学習(1年生)
 - 27日(月) 期末テスト ~29日
↑22日からテスト前部活動中止
- 〈12月〉
 - 5日(火) 生徒会役員改選
 - 6日(水) 人権集会、人権講演会
 - 7日(木) 学年育友会
 - 22日(金) 終業式(給食あり)
- 〈1月〉
 - 9日(火) 始業式(給食あり)、
生徒会役員任命式
3年生実力テスト~10日

《心に響いた言葉》 「今、生徒たちの“積極性”を育てています。」
口加高校同窓会での校長先生のあいさつの言葉から。これを聞いてすぐにメモを取りました。中学校の段階から取り組まねば!

シリーズ「教育を取り巻く社会の動向」

〈第八回〉

長崎県教育振興基本計画から

人生一〇〇年時代

「人口は減り続け、寿命は延びている。」
これが日本の現状です。この中で私たちに求められていることが、次のように示されています。

我が国の平均寿命は年々伸び続けており、(中略) 2065年(今の生徒たちが六〇歳になる頃)には、男性は85歳、女性は91歳になると予測されています。

長寿社会においては、全ての人々が健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる社会づくりが求められるとともに、高齢者が経験や知識を生かし、社会参画や地域貢献の役割を担うことが期待されています。

(長崎県教育振興基本計画から)

つまり、私たちは…

「思った以上に長生きをする」ので、

行けるといふまで(？)社会の中で働いたり、地域に貢献したりしましょうということだと受け止めています。
なにせ、定年後に三十年以上の時間があるので…



〈そこで、中学校(本校)では〉

教育振興基本計画では、上の段の言葉の後に次が続いています。

「人生一〇〇年時代」を見据えて、豊かに生きるために、それぞれのライフステージに応じた知識、技能を身に付けることができる環境づくりが求められています。

今までの学校教育では、「一つのことをずっと続ける」ことや「みんなで同じこと」をすること、「指示をしつかり守ること」などが重要視されてきたように思いますが、これからの社会では、次のことも身に付けさせなければならぬと考えています。

- ・変化の中にチャンスを見出す。
- ・学ぶことにワクワクする。
- ・チャレンジすることを楽しむ。
- ・自分の「得意」を伸ばして生かす。
- ・家族や同級生、学校の先生「以外」の知り合い(コミュニティ)を増やす。



具体的には、「やむを得ない」ではなく、「自分で考えさせる」。「一つ一つの取組の目的や目標を自分で設定させる」、結果をもとに「自分を初めて改善させる」。そしてこれらを時間がかかって遠回りに見えてもやり切らせる。そんな私たち教員の見通しや「がまん」が必要だと考えています。

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

「イルカウォッチング」

先日の長崎新聞で、イワシの異変の原因だとされたイルカですが、後日(令和五年十一月八日)の記事に次の言葉を見つけました。

「イルカウォッチングはドル箱だ」

「ドル箱」という表現も「久々に聞いたなあ」と懐かしみながら、それが「イルカウォッチング」であったことが嬉しい驚きでした。今年の夏は暑すぎて利用者が少なかったと報じられていましたが、不動の観光の目玉なのでね。また、「漁業との共存」という記事もありました。海へ出れば、

99%の確率(！)で出会えるイルカです。確実な観光資源ですので、それを生かし、発展させる後継者の出現が求められています。



【お知らせ】制服変更の検討について】

本校でも、性的少数者(LGBTQ+)への配慮等に基づき、制服変更の検討に入りました。予定としては、令和七年度入学生(現在の小学校五年生)に間に合うことができればと考えています。

御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願ひします。